

令和4年度 大阪府立牧野高等学校 第3回学校運営協議会 議事録

日 時 令和5年2月21日(火) 15:30~16:30

場 所 大阪府立牧野高等学校 校長室

出席者(敬称略)

協議会委員 松宮 新吾(会長)、福原 哲晃、尾崎 順子、田中 博

【欠席】有堀 正彦(副会長)、藍原 雅代

学校長 高松 智

事務局 田中 眞、石田 暁、大塚 正宣、中務 正和

1、会長挨拶

まもなく卒業式が行われるが3年間コロナの影響をモロに受けた生徒たちが所定のカリキュラムを終了して卒業を迎えるというように聞いております。またコロナに関しましては3月18日から日本人の一番苦手な自己判断を求められるということ、また5月からは今の2類から5類へと変更される事で学校行事等においても新しい動きが出てくると考えている。直近の卒業式に関しましては保護者の皆さまは期待されているのでは。今日の会議ではこの1年間の学校運営に関する総括とそれに伴う来年度の計画に関しまして委員の皆様から忌憚ないご意見を頂戴できればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

2、校長挨拶

みなさま、本日はお忙しいところ本校の学校運営協議会へご参加いただき誠にありがとうございます。会長からもありましたとおり、新型コロナウイルス感染症が5月から5類になることを受け、教育現場におきましても来年4月からはマスクの着用を求めないなど、感染者は一定数いるものの、ようやく日常を取り戻すことができるような兆しが見えてきたところ です。

さて、最近一部では公立高校・私立高校とも授業料の完全無償化というワードをよく目にします。もしそれが実現されたならば、かなりの数の公立高校が統廃合されていくのではないかと考えています。多くの私学は、土曜に通常授業を行い、全面芝生のグラウンドや、立派なトレーニングルーム、カフェテリアのような食堂等、充実した施設があります。私学無償化が始まる前は、生徒の公私の比率は概ね7:3でした。それが現行の所得制限を設けた私学無償化になったことで6:4になり、完全無償化になると、更に変わっていくかもしれません。それらのことを踏まえ、先日の職員会議では、本校の教職員に『仕事は人から言われてやるものではない。「自分からやる」という意識で仕事に取り組む“文化”を本校で作っていただきたい。今から10年後、ここにいるほぼ全員の先生が本校からいなくなっていると思いますが、そのような“文化”を新しく来られた先生方に伝えて、異動(退職)して行ってほしい。そして異動先の学校でも、その姿勢を崩さず、その“文化”を作ってほしい』ということを伝えました。大阪府の公立高校は今、多くの問題に直面しておりますが、委員の皆さまのお知恵をお借りしながら「生徒のためにできること」を模索し、「元気で明るい、魅力ある牧野高校」であり続けたいと考えております。

本日は、限られた時間ではございますが、忌憚のないご意見を頂戴し、今後の学校運営に活かしたいと考えております。皆様よろしくお願いいたします。

3、令和4年度学校経営計画及び学校評価(案)について・・・学校長より説明

4、令和5年度学校経営計画及び学校評価(素案)について・・・学校長より説明

- 委員・・・本校において「いじめの状況」に関してはどのような状況か。
- 事務局・・・年間2回のアンケートを実施している。訴えは軽微なものが多い。
- 委員・・・具体的にはどのような対応か。

- 事務局・・・アンケートに記入があった生徒に対して教員が複数名で聞き取りを行う。生徒の思いや、希望を聞いたうえでその生徒が望む対応を行う。
- 会長・・・生徒同士の友人関係の問題などでSNSによるいじめなどの訴えは無いのか。
- 事務局・・・軽微なものが時折あるものの対応できている。
- 会長・・・そのような事案があった時にスクールカウンセラーと繋ぐなどの仕組みは出来ているのか。
- 事務局・・・その通り。
- 会長・・・校長先生の説明の中で「高止まり」という言葉が5～6回出てきた。令和5年度は基準を変えていくとのこと。特にこれまで「よくあてはまる」「あてはまる」を肯定的回答としてみていたが、その中でも第一評価である「よくあてはまる」をいかに増やしていくかが非常に重要となってくる。基準を変えた中で第一評価「よくあてはまる」がどこまで伸びるか期待している。
- 会長・・・進路等に関してはまだ確定されていない部分があるが、またアップデートをされるということで、この学校運営協議会にてご承認をいただくということでしょうか。

→ 承認

5、スクールミッションについて・・・学校長より説明（前回より進捗無し）

- 会長・・・来年度の第1回日本協議会で審議されるということでご了解いただきます。

6、学校教育自己診断について・・・学校長より説明

7、第2回授業アンケートについて・・・学校長より説明

授業アンケートは、生徒たちが全教科の担当教員に対して質問項目それぞれについて、4点を満点として回答したものをまとめたものです。前回の学校運営協議会で、今年度第1回の全平均「3.45」の数値をお伝えいたしました。今回も上昇し、「3.47」となりました。年代別に見ますと、令和元年度には一番低かった60代と40代の先生方の数値が、年々改善され、今回のアンケートでは他の年代とも遜色ない数値になっています。これは、多くの先生方が、校内で実施するICTの研修に、積極的に参加いただいていることが大きな要因ではないかと考えています。ICTに精通している若い教員が様々な方法で研修を開催してくれることもありがたく感じていますが、それに対して、ご経験のある先生方を含め、ほとんどの先生が研修に参加している本校の文化は、自慢できるものだと感じています。

先日、近隣の公立高校の校長先生とこの数値について、会話をしましたが、やはり進学実績の高い学校は、この数値が高くなっており、相関関係がみられるようです。

前回の学校運営協議会でも説明いたしましたとおり、年頭の職員会議において、私の方から先生方に

- * 生徒の悪口を言わない。嫌味を言わない。
- * 分かる授業

* 牧野高校に来て良かったといわれるような学校づくり

をお願いしましたが、中には残念ながら思うような数値が得られていない先生もおられますので、引き続きそういう先生方に対して、助言を行い研修や授業見学を実施することで全体のボトムアップに努めたいと考えています。

- 会長・・・授業アンケートの項目ごとの数値が無いので分からないが、一番着目しておきたいのは、1番の項目「予習復習などの家庭学習」がどの程度しっかりと意識されているのか。それから8番「授業への興味関心」・9番「知識や技能が身についた」の項目において相関関係ができていれば「自立した学習者」が育っていると考えられる。興味関心を持って自ら計画的に学習することができる「自己管理学習」が生徒の中に定着して来るのであれば、授業に対する満足度や年代を問わずいろんな先生方の授業の良いところを吸収できる。
- 事務局・・・学校教育自己診断の最後の質問項目に学校授業以外の平均学習時間を表している。これが先ほどの質問のお答えに最も近いのでは。
- 会長・・・学校平均で授業以外の学習時間が2時間以上と回答している生徒が40%程度いるということか。
- 事務局・・・その通り。
- 会長・・・学習習慣がしっかりと定着しているという好ましい結果が出ている。
- 事務局・・・学年別では3年生の勉強時間が一番長いことが顕著である。

8、職員超過勤務について・・・学校長より説明

前回の学校運営協議会でもご報告しましたとおり、今年度は、コロナによる学校休業や大阪府の指示による部活動の自粛などは実施されていないにも関わらず、先生方の超過勤務は大きく減少しております。教員の働き方改革が問題となっている昨今、大阪府教育庁では来年度より、原則として毎週水曜日を、全教職員が定時に退庁する日とするよう、各学校に求めています。その実効性を担保するため、定時退庁日は、定時の15分前に生徒の一斉下校時刻を設定するようということです。この取組みが、行われたとしても、該当日の部活動指導以外の業務が減るわけではありませんので、超過勤務の縮減につながるかは分かりませんが、先生方の担当業務のマネジメント能力の向上とともに、業務の均等化やスクラップを進めていきたいと考えています。

まだ一斉退庁日が導入されていないにもかかわらず、超過勤務時間が昨年度から10%以上の削減があった本校の今回のこの結果には満足しております。特にご覧いただきたい点としましては、月80時間以上の超過勤務者が1月時点で昨年度は56名おりましたが、今年度は23名。また、月100時間以上の超過勤務者が1月時点で昨年度は21名おりましたが、今年度は6名とどちらも大きく改善されており、業務の均等化が進んでいることが伺えます。

先ほど申し上げましたとおり、来年度から「一斉退庁日」が実施されますが、超過勤務の減少を進めるとともに、やる気のある先生方のモチベーションを保つ手立ても考えていかなければならないところです。教育の質を維持しながら、引き続き

業務の均等化を図り、様々な制度を活用しながら、時間外勤務減少の意識の醸成と合わせ「学校の魅力づくり」に努めていきたいと考えています。

- 会長・・・時間外勤務について改善されてきているが府の「合同部活動」という仕組みにおいて、本校ではどのように進めていくのか。
- 事務局・・・本校は単独実施校であり、他校とのペアリングを実施しない学校である。
- 委員・・・時間外は減っているが、部活を除いて、業務量は変わらないと思う。どのような工夫をしているのか。
- 事務局・・・部活動については部活動指導員の導入で対応。先生方の仕事のマネジメントが上手だと思うがワークライフバランスを意識されている方が増えているのではないかと感じている。
- 会長・・・委員の先生に質問。中学校の超過勤務の様子は。
- 委員・・・中学校の場合は部活動の指導による超過勤務の増加というより、保護者対応や問題行動があった時の学校全体における超過勤務が増える傾向にある。年度によっても大きく変わる。年々、超過勤務の基準の数値を示すことが増えたので、何も業務がない時には早く帰ろうと言いやすい雰囲気がある。
- 委員・・・授業アンケートの結果について、以前は教科間や年代別において差がみられたが、差が無くなってきている。これは全体の先生方が研修などによって授業改善をされた結果であろう。また数値が上がりつつ差が無くなってきているのが素晴らしい。
- 委員・・・仰る通り。取組の成果が出ている。

9、協議

- 委員・・・牧野高校は生徒も先生も本当にしっかりとやっておられる。弁護士会から「法教育」の実践をさせていただいたが、来年度の実施予定はいかがか。
- 事務局・・・現2年生の主任と話をし、実施する方向で大阪弁護士会と話を進めているところ。
- 委員・・・昨年度はクラスごとに実施したことで、各クラスの弁護士担当者によって資料が異なった。来年度は学年で内容を統一するよう私から弁護士会に働きかける。
- 事務局・・・ありがとうございます。
- 委員・・・知り合いの大学1年生の学生が大学を辞めると聞いた。「やりたいことが見つからないまま大学に進学したが、やっとなりたいことが見えた」との事。大学を辞める事がもったいないという気持ちと、やりたいことが見つかって良かったねという気持ちが半々。18歳で自分の進むべき道が見える人はごく僅かであり、家庭との連携を含め夢や目標を見つける本当に大切な3年間であると感じた。牧野高校の生徒がしっかりと育っていくのを楽しみに見ている。
- 委員・・・5月からコロナが5類になることを受け、学校行事や部活動がコロナ以前に戻ってくるが大変嬉しいことである。しかし、高校と違い人事異動のスペンが短い中学校では以前に行った行事のノウハウを知っている教員が少ない場合が多い。行事のイメージができないことが多く、平素に戻していく作業が必要

であるため手放しで喜べない。中学校においても若い先生が多く、高校であれば生徒の知恵などを使うことができるが、中学校では先生に頼ることが大きいので行事が戻る嬉しさとそういう悩みをもっている。牧野高校とは近隣なのでそういうノウハウがあればまたご教示いただきたい。

- 会長・・・頂いた資料の内、進路指導のところにある「生徒の10年後20年先を見据えた」というのは非常に大事なところである。20年先において、現在、日本の少子化問題が言われているが、人口の関係で他国のGDPなどに後れを取ってしまう。発展途上の国の1国以下になってしまう。そういう中で「自分はどのように生きていくのか」という広い視点で進路指導を行うとともに、「どのような力を付けなくてはいけないのか」というところをしっかりと教育していただければ。一般的な今の大学生は「自分で選択することができない」と言われている。例えば経済力があっても大学の留学プログラムのうち提示された三つから自己選択、自己決定が出来ない。そういう現状を目の当たりにしていると先ほどの大学を辞める決心をした方はすごい決心をしたと思う。これまでの小中高を含めて自分が決定していく機会がなかなか与えられなかった環境で育てている子どもが多いように感じる。目標値が高止まりしている牧野高校の学校評価のあり方を次のモーメントやステップに上げていただきたい。

10、閉会・・・学校長よりお礼